

今年の総会、中止を決定

(詳細は8面をご覧ください)

母校正門前に横断幕



佐沼高等学校在仙同窓会便り

ひろがり

No20

1面 ラグビー部特集

発行日：2021. 7. 30

4・5面 32 回生座談会

発行者：佐高在仙同窓会広報誌委員会

快挙

ラグビー部
全国選抜大会に出場



相手を振り切って、そのままライヘ！

シアウトからサインプレーで初トライを奪い、ゴールキックも成功、佐高ラグビー部に新たな歴史を刻みました。2戦目は、同じく推薦枠で出場の沖縄県読谷高校と対戦、惜しくも7対29で敗れました。

古豪復活へ地元も一丸

ラグビー部は、これまでに「花園出場5回」という伝統がありますが、1991年出場以来、花園が遠のいています。なんとか古豪を復活させようと、地元では保護者やOBが中心となり取組を続けています。花園第71回大会に出場した、当時の芳賀一郎監督の教え子たちが中心となって、2003年4月に、「佐沼プラタナスジュニアラグビークラブ」を佐沼に設立、将来の佐高ラグビー部を背負って立つジュニアを育てようと指導しています。現在は40名ほどの子どもたちがバックアップを受けて練習に励んでいます。

経験豊富な白鳥監督の手腕に期待

昨年、佐高OBで経験豊富な白鳥監督が就任して部員たちの地力アップには目覚ましいものがあります。「佐高OBや保護者、地域の方々の支援が選手に勇気と力を与えてくれる。秋の県大会では『チーム佐沼』で花園出場を果たしたい」と、白鳥監督から力強いコメントをいただきました。

いよいよ花園大会予選へ

第101回全国高等学校ラグビー大会(花園)の宮城県予選は、9月4日(土)～11日(土)に利府町の「めぐみ野サッカー場」で開催予定です。全国レベルでの速さや強さを体

験できた選手たちは、30年ぶりの花園出場を目指し秋の県大会へ向け、厳しい練習に励んでいます。



滾る思いを抱き、花園を目指す部員たち

在仙同窓会から熱いエール

在仙同窓会では、全国選抜大会出場の快挙とこれからの一層の活躍を祈り、3月18日、在仙同窓会の羽生会長からラグビー部OB会の高橋英勝会長へお祝い金10万円を贈呈しました。在仙同窓会の皆さん、熱いエールを送りましょう。



OB会高橋会長(左)
と羽生会長

※参考資料・写真提供/広報とめ5月号、佐高ラグビー部OB会報「プラタナス」

総会開催本年も中止に 「ラグビー部全国の舞台」を称賛

在仙同窓会会長 羽生 正弘



会員の皆様には新型コロナウイルス感染が拡大する中、ご健勝にお過ごしのことと存じます。

昨年を振り返りますと今までの生活様式が一変したことは言うまでもありません。当同窓会もやむなく総会開催を中止し、広報誌「ひろ

がり」の発刊のみとしたところであります。

こうした中、明るいニュースが飛び込んで来ました。30年ぶり全国の舞台にラグビー部が出場という快挙の報に接しました。同時にボート部も全国大会に立ったとのことです。後輩達の活躍に「佐高魂」健在と心強く思うと同時に、母校と同窓の絆を改めて思い起こされる朗報でした。特に、毎日新聞には「東北の古豪復活ののろし」のタイトルで、公立高校として勝ち上がったことに対する全国高校ラグビーのお手本のように取り上げられていました。「ローマは一日にしてならず」の諺のとおり、地元で「佐沼プラタナスジュニアラグビークラブ」を開き、地道に指導してこられたOB皆様に敬意を表します。

また、本年は役員改選期に当たっております。私達も今一度「至誠」「献身」「窮理」「力行」の校訓、そして「文武両道」の校是を思い起こし、日々成長の指針としたいものです。

さて、本年も新年早々都市部での緊急事態宣言から始まり、三月十八日には当宮城県にも緊急事態が発せられ変異種の広がりも危惧され、ワクチン接種が始まったとは言え、安心して出歩けない状況になっていると思います。

先般六月七日、常任・期別幹事合同役員会を開催致しました。幹事多数の意見により、残念ながら本年も総会は中止とさせていただきます。

また、本年は役員改選期に当たっております。

が、総会が開催できない以上、常任幹事、監事、期別幹事全員、任期を一年間延長することと致しました。ご理解を賜りたく存じます。

コロナ禍に加え3・11から十年の本年二月と三月に震度5強の大きな地震もきています。会員の皆様には、本年もストレスのかかる一年となりそうですが、オリンピックも開催されていますので、長期にわたるコロナ禍を細心の注意を払いながら乗り越えて行きましょう。

改めて会員皆様のご健勝を祈念し、来年こそ皆様との再会を楽しみにしながら挨拶と致します。

いあごろ

佐沼高等学校長 狩野 秀明



在仙佐高会の皆様には日頃より本校の発展のためにご支援ご協力を賜り厚く感謝を申し上げます。この四月に佐沼高校の校長として赴任しました高三十四回生の狩野と申します。

甚だ微力ではありますが母校発展のために尽くして参りますので、鞭撻のほどよろしくお願

い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大が続いております。昨年度は、四月五月と臨時休業で六月から学校生活が始まりましたが、この感染症の影響により、高校総合体育大会や文化部の大会・発表会等が相次いで中止されました。

この三月の卒業生の進路先ですが、進学では東北大学二名を含む国公立大学三十五名、私立四年制大学百二名、看護医療系の専門学校など三十九名、公務員就職八名、民間就職七名などの実績でした。

部活動のおもな活躍としては、本校ラグビー部が今年三月に第二十二回全国高校ラグビー選抜大会(埼玉県熊谷市)に大会推薦枠により初出場し、また、ボート部女子も舵手付クオ

ルブルで、第三十二回全国高校選抜大会(静岡県浜松市)に東北代表として出場しました。

今年度においては、六月の宮城県高校総体で、団体ではラグビー部準優勝、女子剣道部第三位、男子ソフトテニス部第三位となり、個人ではボート部女子のシングルスカルとダブルスカルで優勝、陸上競技部男子二名が棒高跳びで東北大会で入賞し、以上五名が福井県でのインターハイに出場となりました。このほか陸上競技部の女子やり投げ、男子五千メートル競歩、男子四百メートルハードルで、水泳部女子四百メートル自由形と二百メートル個人メドレーで東北大会に出場しました。文化部においては、美術部男子の作品が、今年八月に和歌山県で行われる全国高校総合文化祭に出品すること

となりました。今後コロナ禍ではありますが、同窓生の皆様のお力をお借りしながら、「文武両道」の校是を実現し、二十一世紀の国際社会を生き抜くことができる英知と健全な心身を持った徳性の高い人物を、教職員一丸となつて育成して参ります。

末筆になりますが、在仙同窓会の皆様には引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、会員皆様方の益々のご健勝とご多幸を、ご祈念申し上げます。

コロナ禍で奮闘する在仙同窓生

新型コロナウイルス(COVID-19)

感染症から学んだこと

ゆうファミリークリニック院長

高橋 裕一(三十回生)



2019年12月に中国武漢市の海鮮市場で最初に感染が確認されたCOVID-19は、

年明けから武漢市内、その後北京市や広東省で症例が報告されるようになった。日本では1月15日に武漢からの帰国者が最初の症例として報告された。その後まだ記憶に新しい中で、ダイヤモンド Princess 号での集団発生があり、国内で感染者数が増えていった。宮城県でのCOVID-19の第一例は前述のダイヤモンド Princess 号の乗客であったが、第二例目は、実は当院通院中の患者さんであった。東京の知人との濃厚接触例で判明したので、実際診察はしておらず、私を含め、職員での濃厚接触者はいなかった。しかし、これをきっかけに、より感染対策強化の必要性を実感し、ビデオ付きのサーモメーターを設置し、患者さんの導線の徹底消毒を行うこととした。発熱外来の開設と隔離ユニットを設置し、診療にあたっている(下段写真)。

我々は今も、COVID-19 感染のため日常生活が非常に制限されている。家族に濃厚接触者が出れば、自宅待機を余儀なくされる。また在宅ワークも広まり、県をまたぐ移動も制限された。さらに、今までに聞きなれない、三密、ソーシャルディスタンス、緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置等を耳にするようになった。そして、その中でこの未曾有の感染症に対しては、予防することが一番大切だということを学んだ。現在高齢者から予防接種が始まっており、この稿が出るころには、より多くの人が予防接種を済ませているであろう。

これから大切なことは、接種したから安心ではなく、接種してもインフルエンザのように感染する事もある。感染しないためには、なおかつマスク、手洗いの感染予防を徹底してゆくことであろう。「正しく、恐れる！」とです。



ボランティアでマスク四千枚を手作り

地元の介護施設や小学校に寄贈

菊池 誠子(二十回生)



昨年三月、新聞で介護施設と小学校にマスクが不足していると知り、思い立って登米市

在住で同期の袋正さんと猪股良雄さんに電話しました。私がマスクを手作りして地元の介護施設と小学校に寄贈したいという、こちらの突然の申し出にも拘わらずお二人ともふたつ返事で賛同いただき、登米市内の介護施設と小学校に出来たばかりの手作りのマスクを届けてくださいました。マスクを作っている間の、多々のアシデントに心が折れそうになった私を支えて下さったのもお二人でした。

登米市内の各施設や小学校への寄贈が一段落して、同期生H高齢者なんだ！と思い、二十年前の名簿を頼りに、二百名の同期生にもマスクをお送りしました。三十通余は戻ってきましたが(何分にも二十年前の名簿です)、その日から連日のようにマスクの材料が全国の同期生から届けられるようになりました。車で早朝届けてくれた人も、「ゴムをつけるのを手伝うから」と申し出てくれた人もいました。

耳用のゴムもガーゼも手にはいらぬ当初は、ゴム無し、裏は日本手ぬぐいのマスクでしたが、声を詰まらせてお電話くださった校長先生

生方、介護施設長さん、心のこもったお手紙とマスクをした写真を送ってくれた小学校の生徒さんの事を思い、立派なマスクを作って寄贈できなかったことの無念さに涙が流れました。

昼夜マスク作りと格闘している私を見て「片道十キロなら歩いて届けるよ」と言ってくれた主人が、帰路にドラッグストアを回ってガーゼを調達、娘はゴム通しと包装を、東京にいる息子はマスク四千枚分のゴムを送ってくれ、家族お届けできたのは、半年後でした。

たった一つの反省は、つけ心地に拘ってブリーツマスクにしたことでした。立体なら一日百枚作れたのにブリーツは四十枚……。

悲喜こもごものマスク作り一年余。手元に残った八百枚も、「ミヤンマーに送らせてください」とお声がかかり旅立ちました。

私が四千枚作れたのは、沢山の支援を下さった佐高二十回生の「絆」のたまものと感謝しております。ありがとうございます。

佐高二十回生、バンザイ！



(無我夢中で作ったマスクの数々)

座・談・会 32 回生

「母校」というか、
「佐沼」への思いが
強くなっています。



武山竜也さん



太田正彰さん



春日ますえさん

コロナワクチン接種が加速して来ましたが、ようやく宮城県に戻りましたが、気仙沼勤務で、また単身赴任、なかなか「在仙」とはならない状況です。最低でも65歳までは会社で頑張りたいと思っています。

6月13日、総会当番幹事の32回生、5名が集まり、近況報告や高校時代の思い出、母校、郷土の思いを語ってもらいました。(敬称略)

自己紹介と近況報告を

佐藤憲雄(旧姓・福岡) 出身は、米山中です。

野球部に入り、思い出は野球だけの状態です。

卒業して、七十七銀行に就職しました。当時の

人事部長は、丸森仲吾大先輩で、面接の時は、

野球の事、特に同期の「小竹靖」君の事ばかり

聞かれ、ダメかなと思いましたが、なぜか合格

できました。銀行でも10年間、硬式野球を続

けました。いったん55歳で出向し、現在は事務

センターの方で仕事しています。

武山竜也 佐沼中出身です。野球部で、先ほどの

小竹君とバッテリーを組んでいました。「小

竹・武山」は、県内ナンバーワンと言われていま

したが、結果は出ませんでした。夏の大会の成

績は3年間で1回しか勝てませんでした。卒業

後は、東北学院大学に進み、硬式野球に所属

全日本選手権にも2度出場しました。その後、

カメイ(株)に入り、名古屋、新潟など37年間

の22年間は県外でした。

夫を支えてきました。

澤美博史 出身中学は米山です。佐藤君とは、

中学から家を行ったり来たりする仲でした。高

校では、野球の方が忙しく、少し付き合いは少

なくなりました。私は、水泳部に席を置いてい

ました。プール掃除だけを一生懸命した思い出

があります。卒業後は、公務員志望でしたが全

減、就職浪人のような形で、役場の臨時などを

1年間しました。その間に、郵政職の試験に通

り、涌谷の小里郵便局に就職しました。そこで

今度は部内の試験制度があり、それも通り、

仙台に来ることになりました。当時の東北郵

政局に40歳位までいて、転勤の話があり、い

ろ事情もあり、異動を遠慮、それ以降は、

仙台中央郵便局と太白区の新仙台郵便局を行

ったり来たりし、現在は仙台中央郵便局で仕事

をしています。

同期生や同窓生との交流は？

(佐藤) 野球部の同期と年1回、コーチだった

小竹先輩の「小料理・小竹」に、1月1日の夜に

集っています。27か28歳位から30年以上続

いています。今年はいえませんが、同期8人

と、たまに先輩や後輩も入って、多い時には15

人位が集まっています。

(太田) 仕事の関係では、同期とは、そんなに会

う機会はないですね。

(春日) 私は時々ですが、佐沼でお盆と正月

の夜に、有志が集まって飲む機会があります。

コロナで、去年も今年もなしですが、12から

13人位集まります。最近、孫が生まれたと

か親の介護とかで減りつつありますが、私は、

在仙同窓会には、最初から参加しています。

「同窓会名簿を作成します」と夕刊に出たので、

素直に名前を教えたら、いつの間にか幹事にな

っていました。

(澤美) 親父が米山で一人暮らしをしていて、買

い物などいろいろ手がかかるようになり、週1

回ほど、地元に戻っています。近所に、佐高に

勤めている同期の清水明君がいて、「今年は同

窓会中止だよ」というような情報を聞いていま

す。

(佐藤) 実は、今年の総会があれば、同期の出し

物として講演ではなく、清水君の「ミニコンサ

ト」と考えていました。同窓会の歌を作って、

2年前の本部同窓会で披露しました。

2年生の時に「宮城県沖地震」

(春日) そういえば、昨日、6月12日、地震が

あったよね。2年生の時、宮城県沖地震、

(澤美) 地震起きた時、確か体育の時間で、サッ

カーしていたような気が。



たような気がする。

(佐藤) 富士原君と言えば、今、東大の教授をやっている。米山中の同級生では、一番の出世ですよ。

(春日) 東大と言えば、もう1人いたよね。

(佐藤) 登米の高橋君。彼は、我々の自慢では。

(太田) 確かあの時、「東大現役合格」は佐高始まって以来だった。

(渥美) そういえば、北川君は、東北大学医学部だったよね。

高校時代の思い出

(佐藤) 春日さんも3年3組だよ。何か思い出になる事をしようとなつて、3年3組なので33キロ歩こうとなり、志津川の「海洋センター」に1泊で行く事になった。

(春日) 確か、卒業して3月5日だったかな。進路も決まっていたので、ほぼ全員参加した。あれは、みんな苦行だったと思うよ。

(佐藤) 行く時に、志津川の山(水界峠)を越えるのが大変だった。「こゝで、また半分か」、行く時は、本当に大変だった。

(春日) 夜は、みな疲れて、ぐったりだった。

(佐藤) そうだ、修学旅行がなくなったので、東北方面にバスで2泊3日のクラス旅行に行った。

(武山) 先輩たちがいいことやってくれて、修学旅行が無くなった。

(渥美) 結局、だいたい、みな同じコースで。そこから回るか、こつちから回るかで。

(佐藤) 特に、青森と秋田あたりですれ違った。

(武山) そういえば、俺たち3年8組では、神割崎でキャンプをした。実は、高校野球県大会決

勝の日と重なり、「当然、決勝に行くので参加できない」と言っていたが、2回戦で敗退、喜んで参加しました。

(佐藤) なかなか、心がけだけは良かったんだ。まず、甲子園に行く意志はあるからね。(先の読み過ぎとの声も)

(武山) 1年生の「栗駒登山」の時もそうだった。シード校だったので、当然勝つので、登山には行けないと。1回戦で負け、(恥を忍んで)参加することになった。夏の思い出は、決勝まで「行く意気込み」と「行けないはず」の栗駒とキャンプの思い出です。

母校や郷土の思いを

(佐藤) 実家に帰ると、用もないのに、佐高経由で帰ってくるんですね。だんだん、母校というか、佐沼への思いが強くなっています。先週まで、高校総体がありましたが無心に、「佐沼」を探します。我々の時は360人、今は240人で、一部のような活躍を期待したいですね。

(武山) 7年前の野球の決勝戦は、球場は8対2で佐高の応援だった。我々はもちろん、バックネット裏の中立の人も、「佐沼を甲子園に行かせたい」という全体の雰囲気だった。このまま本堂に行ってくれたらなんと祈っていた。ぜひ一度は



佐藤憲雄さん



渥美博史さん

(事務局) 32回生の皆さん、コロナの中、ご協力ありがとうございました。1時間半に及ぶ楽しい座談会でした。紙面の都合で、せつかくのお話を掲載できませんでした。ご了承ください。

「おかえりモネ」で全国区へ

(春日) 郷土、登米市はこれからでしょう。朝ドラ、始まったでしょう。(タイムリーだね)

(渥美) 「おかえりモネ」は、だいぶ前から宣伝していましたが、期待しているんですよ。これは見ないとダメだよ。どうしても、「風車はCGだな」とか「こんなところにこんなのないよ」とか思いますが、でもやっぱり、実在の気仙沼とか登米市を全国放送で見ると、誇らしいというか、そんな気持ちになりますね。これからだんだん面白くなっていくということなので、母校愛と郷土愛で期待しましょう。

東日本大震災から十年

東日本大震災の語り部活動

花渕（旧姓 庄子）みどり

（高十八回生）



悪夢のような震災から十年が経ちました。震災時は若林区荒浜にある特別老人ホームで仕事

中で、入居者を安全に避難させることでいっぱいでした。真つ黒い津波がすべてを呑みこんで行く様子を見ながら、どうすることも出来ず、水の中にも多く元気づけられるようこれからも頑張る特別老人ホームで仕事も生まれ、私自身も元気をもらっています。

十二日の夕方、ヘリコプターで救出されました。家族とはまったく連絡がとれず、十三日の十七時頃やっと無事であることが確認できたのです。しかし入居者の方々が泉区の施設に移動することになり、この日から避難所からの通勤となり、とても苦しく大変な生活となりました。

私にとってこの十年は他の人には絶対に出来ない事をたくさん体験し、生活も大きく変わりました。市役所から声をかけて頂き今、「せんだい3・11メモリアル交流館」で館内展示の語り部活動をしています。これは生かされた者として津波の恐ろしい体験をしてほしくないという思いと、国内外からの支援をしてくださった皆さんへの恩返しと感謝の気持ちで活動をしています。



（メモリアル交流館で説明する花渕さん）

母・校・通・信

佐沼高校同窓会事務局長

佐藤 和典（高三十三回生）

五月下旬から六月上旬にかけて、令和三年度宮城県高等学校総合体育大会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルスのため開催されませんでした。今年度は各種目とも感染拡大防止の措置を徹底し、無観客試合にするなどして二年ぶりに開催されました。その主な結果についてお知らせします。

- 女子団体3位、女子個人ベスト16
- バドミントン部
- 男子団体ベスト16、ダブルスベスト16、女子団体ベスト16
- バスケットボール部
- 男子二回戦敗退、女子ベスト16
- バレーボール部
- 男子一回戦敗退、女子二回戦敗退
- ソフトボール部
- 二回戦敗退
- 卓球部
- 男子団体二回戦敗退、女子団体二回戦敗退
- サッカー部
- 一回戦敗退
- ハンドボール部
- 一回戦敗退



今年度の上位大会については、インターハイの予選となる種目のみ東北大会が開催されます。佐沼高校は、ボート部がインターハイ出場を決定し、陸上競技部と水泳部が東北大会へ進出となりました。



- 男子総合三位、男子シングルスカル二位、男子ダブルスカル三位、男子クオドルプル三位
- 陸上競技部
- 男子棒高跳び一位二位・五位、男子5000m三位、男子4000m四位
- 女子やり投げ五位以上六名が東北大会出場
- 水泳部
- 女子400m自由形六位、女子200m個人メドレー六位東北大会出場
- ラグビー部
- 準優勝
- ソフトテニス部
- 男子団体三位、男子個人ベスト16、女子団体二回戦敗退
- 剣道部
- 男子個人ベスト16、

3・11を語りつくす仙同窓生

3・11を語りつくす会代表 渡辺祥子さん

(フリーアナウンサー、高三十六回生)



東日本大震災から
10年となった今年3
月、在仙同窓会副会
長の渡辺祥子さんが
『エッセイ集』困難を希
望に変える力〜3・11

10年後のことづく『3・11を語りつくす会刊』を出版しました。風化の懸念が伝えられる中、渡辺さんは、現在、そしてこれからをどう見ているのでしょうか。広報誌委員会では、渡辺さんに、これまでを振り返って頂きながらお話を伺いました。

語り終るにはいられなかった

語り終る活動を始めるときは？

渡辺 震災以前の私は、「言葉を通して多くの方に希望を届けたい」と思っていて活動していましたが、あの災害下、体調不良などで自由に動けなかったこともあり、「言葉がなんの役に立つのか」と自分を責め、葛藤に陥りました。けれどもそんな私を奮い立たせてくれたのが、被災地に向いた仲間たちの報告の中で知る、被災地で懸命に生きる人々の姿であり、言葉でした。「先の見えない困難の中で、こんなにも力強く生きていく人たちがいるのだ」と、一瞬でも絶望的になつた自分を恥じました。人間の生きる力、可能性の大きさを強く感じた時でした。

性から活動が始まったのです

渡辺 はい。体調も回復した2011年の5月末から、「被災地の心を伝えるお話し会」をスタートさせ、3年間、全国およそ100カ所近くでお話しをさせて頂きました。



お話し会スタートの地、山口県宇部市の
西岐波小学校で (2011年5月24日)

そこから数々の被災地支援の縁も生まれま

した。その後仲間と『3・11を語りつくす会』を結成し、言葉の展示やメッセージコンサート各地で行っています。2015年には登米祝祭劇場でも開催し、佐高同窓生の方々にも温かいご支援を頂きました。

力をくれる言葉たち

印象に残る言葉を教えて下さい

渡辺 沢山あるのですが、例えば、宮城県山元町の八重垣神社宮司の藤波祥子さんの、「今、目の前に起きていることが、私の人生」。藤波さんは、1200年以上の歴史を持つ神社や自

宅を津波で全て流されても、「変わったのは生活であって、今こうして生きている現実そのものが、私の人生だ」という現実を受け入れ、前を向いていました。こうした方々や、その言葉に出会うことで、私の中に「被災地で力強く生きる人々の姿は、多くの人の生きる指針となり力になる」との強い思いが芽生えました。その思いは今も変わっていませんし、活動を続ける原動力になっています。

エッセイ集はどのような内容ですか？

渡辺 これまで出会った方の中から十一名に登場していただき、その歩みや言葉を紹介しながら、それぞれの生き方に共通する、「それでも前を向く力」の源流を求めてみようと思えました。

抛り所としたのは、『夜と霧』(強制収容所の体験記)の著者としても知られるウイン出身の精神科医、ウィクトール・フランクルの言葉や精神療法「ロゼンバウム」の考え方です。

丁寧に伝える続ける

震災から10年、今思ふことは？

渡辺 エッセイ集を出版して実感したのですが、震災後に支援をしてくださった全国の多くの方が、「周囲の人たちにも伝えたい」と何冊もお買い求め下さいました。温かい応援メッセージも頂き、10年前に感じた、人と人とのつながりの力は決して消えていないと実感しました。

— そのような、つながりの力のことでも伝えていきたいと・・・

渡辺 今、世の中には、新型コロナウイルスにより、

直接つながれない、触れ合えないことが沢山あります。でも、10年前、私たちは確かにつながっていました。全国、世界中の人々が、被災地の、顔も名前も知らない誰かの無事を心から祈りました。まさか震災から10年の年に、こんな困難がやってくるとは誰も想像出来なかったと思います。でもだからこそ、あの時、自分を超えて誰かとつながろうとする力がどれだけ被災地の人々の支えになり、それがひいては自分自身の力になったのかを、今一度思い出しつながり直すことが大事ではないか。それを伝えることもまた自分が成すべきことだと感じています。



展示とメッセージコンサートの様子
(藤崎百貨店グリーンルーム 2017年3月9日)

— これからの活動も期待しています

渡辺 ありがとうございます。誠実に、丁寧に伝え続けていきたいと思っています。

書籍の間合せ 3・11を語りつくす会事務局 菅野

(090・2889・3690)

※価格880円(税込)

◆18 回生

「プラタナス寄稿集」を発行

河北新報で紹介される

6月21日の河北新報朝刊で、18回生の皆さんが5月に発行した、「プラタナス寄稿集」が紹介されました(写真)。ご覧になられた方もいると思います。この文集は、18回生有志から寄稿された、高校時代の部活や恩師の思い出、また東日本大震災の体験、同窓会旅行などの近況、そして広報誌「ひろがり」に掲載されたものを含む25編と、昔の校舎の風景や部活の写真なども収められ、佐高での青春時代を彷彿とさせてくれる内容です。18回生の皆さんは、在仙同窓会総会には、毎年、大勢で参加していただいています。この寄稿集の発行も、いくつになっても若々しく、伸びやかな気持ちで同級生付き合いを継続していることで実現したものと思います。発行おめでとうございました。発行の経緯や編集のご苦労などは、改めて、次号で寄稿していただく予定です。

(A4判、80ページ、カラー。2000部発行)



◆佐沼高校同窓会

第3回懇親ゴルフコンペ開催

令和2年11月26日(木)杜の都ゴルフ倶楽部において、第3回佐沼高校同窓会懇親ゴルフコンペが開催されました。オール佐高同窓会の懇親をゴルフでも深めようと平成30年に第1回大会が開催され、昨年は新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して、総勢69人が集い、ゴルフの楽しさを満喫しました。在仙同窓会からは8人が参加しました。ダブルペリア方式での優勝はネット71・6(グロス80)でプレーした富士原猛さん(46回生)。今年も9月9日(木)「松島チサンカントリークラブ」で開催予定です。

◆常任幹事・期別幹事合同会議

今年度総会の開催は

中止となりました。

令和3年6月7日午後6時より、アエル28階のエル・ソーラ仙台大研修室において、常任幹事・期別幹事合同会議を開催しました。

前年度の事業報告と決算報告、監査報告があり、承認されました。続いて、今年の総会の開催について審議、各幹事より意見が出され、「今年も新型コロナウイルスの影響により総会開催を中止すること」に、賛成多数で決定されました。

総会の開催は中止するが、広報誌ひろがりの発行は継続することから、年会費は例年通り会員に納入していただくことになりました。

会計・監査の各報告及び令和3年度の事業計画・予算に関しては、来年度開催の総会に

おきまして、改めて、会員皆様のご承認をいただきたいと存じます。

また、今年は役員改選期となっておりますが、総会が開催できず新役員を決められる状況にならないことから、現行の役員体制を暫定的に1年間継続し、来年度の総会において、役員改選を行うことといたしました。

◆年会費の納入金をお願いします。

在仙同窓会の活動は、在仙同窓生の年会費で運営しております。会員皆様へのご案内郵送料、広報誌ひろがりの制作と印刷代、その他用紙文具通信費などを年会費から支出しております。誠に恐縮ですが、1人2000円の年会費を今年も納入いただきたくお願い申し上げます。

◆情報をお待ちしています

お知らせの同窓生の活動や、活躍している情報(同期会、趣味、サークル、イベント、著作等の活動等)がありましたら、ぜひ事務局へご連絡をお願いします。在仙同窓会事務局/榎ホットハウス内(担当・岡本)☎(215)7787

◆編集後記

今年の総会も、中止になりました。コロナ収束は、まだまだ先のようなです。今回の「ひろがり」では、東日本大震災10年とコロナ禍での同窓の皆さんの活動を紹介させていただきました。これからの毎日に、大変良い刺激となりました。また、1面で母校ラグビー部の活躍を紹介できました。

「さて、来年はどうを?」、期待しましょう。

編集委員長(25回生)佐藤新光



ホットハウス

「住み替えて始まる素敵生活」
不動産のことならホットハウスへ!

代表取締役 日下 敦(高第30回生)
仙台市青葉区本町1丁目5-31
TEL 022(215)7787

株式会社大成ハウジング

代表取締役 佐々木 良泰

(高第31回生)

仙台市若林区荒井五丁目十九番地の四
☎022(218)3326

「地域の患者さん、
リウマチ患者さんのために」

ゆうファミリークリニック

院長 高橋 裕一

(高第30回生)

宮城県青葉区利府町利府字新館二二五
☎022(766)4141

(株)日専連ライフサービス

「豊かさをかたちに」



仙台市青葉区中央二・三・一
☎022(267)9231

特別寄稿



高十八回生

高橋武比古

「郷土の英雄鈴木三守中佐」

はじめに

在仙同窓会羽生会長は以前、丸森仲吾元会長より「真珠湾攻撃で雷撃隊長として戦死し、のちに軍神として祀られた鈴木中佐は旧制佐沼中学卒だった。軍神として祀られている中田町まで、野球部員はランニングをして墓参をしていた」という話を教えていただいたそうである。

「どんな人物なのか興味深い。場違いは承知の上で、母校の偉人は同窓会会報誌に残しておきたい。中田町のよしみで会報誌に記事を書いてくれ」と羽生会長から寄稿を依頼された。

早速、『中田町史』や『佐高百年史』を繰り、公民館や菩提寺を訪ね、資

料を収集。また郷土史に詳しい『石森のふるさとを語る会』の伊藤紀朗会長（高一回）に話しを伺うなどして、鈴木三守氏の生涯を辿ってみた。

鈴木三守中佐略年譜

大正四年（一九一五）一月一日登米郡石森町字町に生まれる。

昭和七年 旧制佐沼中学（中二六回）卒業

昭和八年 海軍兵学校入学。同兵学校昭和十二年（六四期）卒業

卒業

昭和十三年 海軍少尉任官。昭和十四年海軍中尉、昭和十五年海軍大尉任官

昭和十六年（一九四一）二月八日空母「加賀」第一次攻撃部隊、雷撃中隊長として

攻撃中被弾、魚雷発射後敵艦に体当たりして戦死。

行年二七歳。この功績により二階級特進中佐に任ぜられる。

小学校時代の鈴木氏はおとなしい性格ながらも成績優秀な少年であった

とという。佐沼中学でも成績は抜群であり、当時、東京帝大を目指す道よりも難関だったといわれる海軍兵学校（広島・江田島）に合格した。同期の合格者は全国で一五七名、うち宮城県内からは五名が合格、その内、佐沼中から鈴木氏と佐々木千代人氏（戦死）と阿部審氏（在仙同窓会初代会長）の三名が合格。全国の名門中学の英才が集まる海兵に三名もの合格者を出した佐沼中学校第二六期は稀有の存在であった。

参考までに在仙同窓会初代会長であった阿部審大先輩については丸森元在仙同窓会長が、同窓会創設の思い出として第十二号会報誌に掲載しておられた。

鈴木中佐と真珠湾攻撃

海兵卒業後は巡洋艦「磐手」、「神通」の乗組員を歴任。その後、長崎・大村や鹿児島島の航空隊付となり航空機の操縦士となった。当初、水平爆撃専門であったが、後に空母「加賀」の雷撃（魚雷を飛行機から発射する）隊付を命ぜられた。「加賀」の雷撃隊は実戦に役立つ雷撃法を作り上げる

べく猛訓練に励み、なかでも、鈴木氏は命知らずの猛者として名をはせたという。

昭和十六年一月二二日、空母六隻、戦艦二隻、巡洋艦・駆逐艦二二隻、特殊潜航艇五隻から成る連合艦隊機動部隊が択捉島単冠（ひとかつぶ）湾に集結した。その折、空母「加賀」の鈴木大尉は空母「赤城」の航空参謀源田実中佐（戦後に自衛隊航空幕僚長、参議院議員）を訪ね、真珠湾の深度一二米の海での雷撃について「今度は必中を期して発射しなければなりません。いくら距離で魚雷を投下すれば良いと思われませんか」と意見を聞いた。雷撃の魚雷は一般に高度一〇〇米で発射、五〇米ほど深く沈み、その後敵艦めがけ巡航するものであった。大尉は源田中佐と高度一〇米、距離六〇〇米での発射を確認した。

一月二六日朝、機動部隊は単冠湾を出港、日米交渉が妥結なら攻撃は中止、決裂なら宣戦布告との両構えでの航行だった。米軍に捕捉されないように荒波の北太平洋をハワイに向かうなか、結局、交渉は決裂、一二月一日御前会議で「開戦もやむなし」との結論に至った。

一月八日午前三時一九分（現地時間七日午前七時一九分）六隻の空母から発艦した艦載機の攻撃で太平洋戦争の火蓋が切られた。一次一八三機、二次一六七機の爆撃・雷撃・戦闘機の攻撃は米軍の艦船に大打撃を与えた。「加賀」の鈴木大尉は雷撃隊中隊長として九七式艦上攻撃機を操縦、同機には森田飛曹長（航法兼雷爆撃照準手）、町元二飛曹（電信兼機銃手）が搭乗、八〇〇キロ魚雷を搭載して出撃、隊を指揮しながら予定通り高度一〇米を低速で敵艦に接近した。敵の対空砲火は激しく機は被弾し、隊長機自ら敵艦に体当たりして戦死した。（敵艦煙突に激突、海中に没したとの説もある）

源田氏は回顧録で「好漢鈴木三守、私はこの男に期待もし、かわいがつてもいたのであるが、どうやら六〇〇メートルまで肉薄し発射したらしい。その後、敵弾を受けて自爆したため帰ってこなかった」と記述している。

真珠湾攻撃による米国側の損害は、沈没または損傷が戦艦八隻、巡洋艦・駆逐艦一一隻、航空機は三四七機が損失または損傷、戦死二四〇二名であった。ただし空母隊は外洋を

航行しており湾内になかった。日本側の損害は艦上攻撃機二九機、戦死五四名（うち少尉以上の士官三名）、特殊潜航艇五隻、戦死九名であった。翌年七月、新聞に「海鷲三士官、真珠湾攻撃の功により二階級特進の中佐に任ぜられる。」と報じられる。同年九月二七日石森小学校で「軍神」鈴木三守中佐の町葬が盛大に営まれた。石森切通墓地に葬られる。

おわりに

伊藤紀朗氏から「鈴木中佐には妻がおり、彼女は後に実家に戻られたらしいです。また、平成二三年真珠湾の海底から遺骨の一部が見つかり、発見現場から鈴木中佐のものである可能性が高いとの情報が遺族会の方からあった。ただ、その後の詳細は不明である」と伺った。鈴木中佐の遺影や遺品は現在も仙台青葉城址の護国神社英霊館の展示室に納められており、いつでも拝観できる。

また、『中田町史』の人物誌の章に中佐が紹介されている。文末に「純粋に国を思い万感を胸に戦場に散った幾多の先輩の中から身近な方とし

て鈴木中佐を挙げました。当時の社会や軍国主義がいかに個人や家庭を犠牲にしたものであったか。更には現在の繁栄と平和が、どんなに尊いものであるかを、若い世代にも是非知ってほしいと思いとりあげました」との記述がある。

付記

平成二一年五月、私はハワイに行く機会があり、真珠湾を訪れた。常夏の島は空も海も碧く、この地で激戦が展開されたとは想像もつかないほど美しい所であった。今思うとあの海の底にまだ鈴木中佐の遺骨があったとすると非常に感慨深いものがある。

令和二年一月八日鈴木中佐の墓参をして稿を了える。

参考文献

『源田実著 真珠湾作戦回顧録』
『中田町史』『佐沼高校百年史』など



鈴木三守中佐の英霊
（護国神社の展示室）



当時の新聞記事